

教科	科目	単位数	対象学年
地理歴史科	世界史探究	3	5年

1. 学習の到達目標等

到達目標	「歴史総合」で学んだ学習を前提とし、地球の誕生や人類の誕生を視野に入れつつ、古代文明の形成から現代に至る世界の歴史の展開を扱い、諸地域の歴史的特質の形成、諸地域の交流・再編、諸地域の結合・変容という大きな枠組みを基に、世界の歴史を大きく捉える。
目標を達成するための留意点	◆授業を中心に教科書・図説・プリント・世紀別地図などを活用して、世界の歴史の流れを整理・理解させていく。◆人名や事件の名称を単に暗記するのではなく、歴史事象の背景や結果とその影響などを、多角的・多面的に理解・考察できるようグループワークなどを用いていく。◆『総合マスター世界史』や授業内の確認問題などを定期的に解き、主体的・客観的に理解度を確認できるようにしていく。
使用教科書	詳説 世界史（山川出版社）
使用副教材	世界史用語集（山川出版社）、総合マスター世界史（浜島書店）、ニューステージ世界史詳覧（浜島書店）
評価基準	知識・技能／思考力・判断力・表現力／主体的に学習に取り組む態度 それぞれの項目に関して、授業・定期考査・課題・振り返りプリント等を通して総合的に評価する。
学習内容	<p>第Ⅰ部 諸地域の歴史的特質の形成</p> <p>第1章 文明の成立と古代文明の特質</p> <p>第2章 中央ユーラシアと東アジア世界</p> <p>第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開</p> <p>第4章 西アジアと地中海周辺の世界形成</p> <p>第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成</p> <p>第Ⅱ部 諸地域の交流・再編</p> <p>第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向</p> <p>第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開</p> <p>第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国</p> <p>第9章 大交易・大交流の時代</p> <p>第10章 アジアの諸帝国の繁栄</p> <p>第11章 近世ヨーロッパ世界の動向</p> <p>第Ⅲ部 諸地域の統合・変容</p> <p>第12章 産業革命と環大西洋革命</p> <p>第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成</p> <p>第14章 アジア諸地域の動揺</p>

教科	科目	単位数	対象学年
公民	公共	2	5年

1. 学習の到達目標等

到達目標	○ 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解するとともに、諸課題の解決に向けて、公共的な空間における基本的原理を活用し、事実をもとに多面的・多角的に考察し、公正に判断する力や、社会参画を視野に入れながら構想したことを議論し合意形成する力を養う。
目標を達成するための留意点	○ 学習内容について、具体的な事例を用いて考えさせることで、生徒が自分の生き方と関連付けて理解できるようにするとともに、そのことにより生徒の意見を引き出すようにする。 ○ 学習課題の解決のための資料等を複数提示することにより、生徒が適切な資料等を自ら選択し、さまざまな視点から考えを表現できるようにする。 ○ ICT教材を活用することにより、アクティブラーニングを促す。
使用教科書	高等学校 新公共（第一学習社）
使用副教材	最新図説 公共（浜島書店） 新公共要点ノート(啓隆社)
評価基準	知識・理解／思考力・判断力・表現力／主体的に学習に取り組む態度 それぞれの項目に関して、授業・定期考査・課題等を通して総合的に評価する。
学習内容	<p>【 公共的な空間をつくる私たち 】 社会に生きる私たち／個人の尊厳と自主・自律／多様性と共通性／伝統文化とのかかわり／自立した主体をめざして</p> <p>【 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 】 人間と社会のあり方についての見方・考え方</p> <p>【 公共的な空間における基本的原理 】 人間の尊厳と平等，個人の尊重／民主主義と法の支配／自由・権利と責任・義務／日本国憲法に生きる基本的原理</p> <p>【 法的な主体となる私たち 】 法や規範の意義と役割／契約と消費者の権利・責任／司法参加の意義</p> <p>【 政治的な主体となる私たち 】 政治参加と公正な世論形成／国際社会と国家社会／日本の安全保障と防衛／国際社会の変化と日本の役割</p> <p>【 経済的な主体となる私たち 】 雇用と労働問題／社会の変化と職業観／市場経済の機能と限界／金融のはたらき／財政の役割と社会保障／経済のグローバル化</p>

教科	科目	単位数	対象学年
理科	化学(理系)	3	5年

1. 学習の到達目標等

到達目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。
目標を達成するための留意点	受動的な学習姿勢ではなく、能動的な学習姿勢を意識させる。 演習を通じて、学習内容を確認し、思考力や応用力を養う。
使用教科書	「化学 Vol.1 理論編」(東京書籍) 「化学 Vol.2 物質編」(東京書籍)
使用副教材	「セミナー化学基礎+化学」(第一学習社)
評価基準	*主体的に学習に取り組む態度 *思考・判断・表現 *知識・技能 の3つの観点をもとに総合的に評価する。
学習内容	2編 化学反応とエネルギー 1章 化学反応と熱・光 3編 化学反応の速さと平衡 1章 化学反応の速さ 2章 化学平衡 3章 水溶液中の化学平衡 4編 無機物質 1章 周期表と元素 2章 非金属元素の単体と化合物 3章 典型金属元素の単体と化合物 4章 遷移元素の単体と化合物 5章 金属イオンと分離と確認 5編 有機化合物 1章 有機化合物の特徴と構造 2章 炭化水素

2. 指導計画

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
化学反応とエネルギー	化学反応と熱・光												
	電池と電気分解												
化学反応の速さと平衡	化学反応の速さ												
	化学平衡												
	水溶液中の化学平衡												
無機物質	周期表と元素			1学期	1学期				2学期	2学期			学年末
	非金属元素の単体と化合物			中期	中期				中期	中期			末
	典型金属元素の単体と化合物			中期	中期				中期	中期			末
	遷移元素の単体と化合物			中期	中期				中期	中期			末
	金属イオンの分離と確認			中期	中期				中期	中期			末
有機化合物	有機化合物の特徴と構造			中期	中期				中期	中期			末
	炭化水素			中期	中期				中期	中期			末
	酸素を含む有機化合物			中期	中期				中期	中期			末
	芳香族化合物			中期	中期				中期	中期			末
	有機化合物と人間生活			中期	中期				中期	中期			末

教科	科目	単位数	対象学年
理科	生物（理系）	4	5年

1. 学習の到達目標等

到達目標	生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。
目標を達成するための留意点	受動的な学習姿勢ではなく、能動的な学習姿勢を意識させる。 演習を通じて、学習内容を確認し、思考力や応用力を養う。
使用教科書	「生物」（東京書籍）
使用副教材	「リードα 生物」（数研出版） 「フォトサイエンス生物」（数研出版）
評価基準	*主体的に学習に取り組む態度 *思考・判断・表現 *知識・技能 の3つの観点をもとに総合的に評価する。
学習内容	1編：生物の進化 1章：生命の起源と細胞の進化 2章：遺伝子の変化と進化のしくみ 3章：生物の系統と進化 2編：生命現象と物質 1章：細胞と物質 2章：代謝とエネルギー 3編：遺伝情報の発現と発生 1章：遺伝情報とその発現 2章：発生と遺伝子発現 3章：遺伝子を扱う技術

2. 指導計画

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
生物の多様性と生態系	生命の起源と細胞の進化	■											
	遺伝子の変化と進化のしくみ		■										
	生物の系統と進化			■	■								
生命現象と物質	細胞と物質						■	■					
	代謝とエネルギー							■					
遺伝情報の発現と発生	遺伝情報とその発現								■				
	発生と遺伝子発現									■	■		
	遺伝子を扱う技術												■
生物の環境応答	動物の刺激の受容と反応												
	動物の行動												
	植物の環境応答												
生態と環境	個体群と生物群集												
	生態系の物質生産と物質循環												
	生態系と人間生活												
				1 学 期 中 間 考 査	1 学 期 期 末 考 査				2 学 期 中 間 考 査	2 学 期 期 末 考 査			学 年 末 考 査

教科	科目	単位数	対象学年
理科	生物基礎(文系)	2	5年

1. 学習の到達目標等

到達目標	生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。
目標を達成するための留意点	受動的な学習姿勢ではなく、能動的な学習姿勢を意識させる。 演習を通じて、学習内容を確認し、思考力や応用力を養う。
使用教科書	「生物基礎」(東京書籍)
使用副教材	「リードα 生物基礎」(数研出版) 「共通テスト対策チェック&演習 生物基礎」(数研出版)
評価基準	*主体的に学習に取り組む態度 *思考・判断・表現 *知識・技能 の3つの観点をもとに総合的に評価する。
学習内容	入試対策演習

2. 指導計画

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
生物の特徴	生物の多様性と共通性			1 学 期 中 間 考 査					2 学 期 中 間 考 査				学 年 末 考 査
	生物とエネルギー												
遺伝子とそのはたらき	遺伝情報とDNA												
	遺伝情報とタンパク質												
ヒトの体の調節	体内環境と情報伝達												
	免疫のはたらき												
生物の多様性と生態系	植生と遷移												
	生態系と生物の多様性												

教科	科目	授業時数	対象学年
家庭	家庭基礎	2	5年

1. 学習の到達目標等

到達目標	生活を充実・向上しようとする実践的な態度を持つことができる。 家庭生活の意義や社会とのかかわりを理解し、男女が協力して家庭や地域の生活課題を主体的に解決する能力と態度を身につける。
目標を達成するための留意点	各分野の基礎的・基本的な知識や技術を、実践的・体験的な学習を通して習得する。 実習の際には、実習費・裁縫道具・エプロン・三角巾・ふきん・マスクが必要。
使用教科書	「家庭基礎 自立・共生・創造」(東京書籍)
使用副教材	「家庭基礎 自立・共生・創造」学習ノート(東京書籍)、プリント教材 等
評価基準	授業、実習での意欲関心 定期テスト、課題・作品
学習内容	1章 生涯を見通す 2章 人生をつくる 3章 子どもと共に育つ 4章 超高齢社会を共に生きる 5章 共に生き、共に支える 6章 食生活をつくる 7章 衣生活をつくる 8章 住生活をつくる 9章 経済生活を営む 10章 持続可能な生活を営む 11章 これからの生活を創造する

